

NTS物語

吉田 隆

一、本を作り始めた頃

⑧本作り

再スタートを切ってからも、セミナーに追われる日が続いた。セミナー業はその日暮しである。水商売と同等と見做され金融機関の受けが悪く、創業の頃から「売上の半分がセミナーだから」という理由で融資を断られることがしばしばだった。残り半分のフジテクの本の売上を少しでも自力でと考え、創業直後から始めたのが実はセミナーテキストの商品化だった。元手もかからず一冊一万円ほどで月々百冊売れるので、資本金百万円でスタートした当初は貴重な収益源だった。しかし、手書き原稿あり著者の都合で空白ページありと商品価値としては甚だ心許なく、再スタートを切る頃には手を引いてしまった。

目標はあくまでフジテクでの経験を生かした本作りだった。フジテク在籍中に五百頁ほどの資料集や千頁を超えるハンドブック等、合せて十五冊ほど手掛けていたので作り方は心得ていたものの、セミナーに比べ制作のためのリスクは格段に高かったのである。それでも、創業から再スタート後の二〜三年は様々な本作りにチャレンジした。創業間もない昭和五十九年一月には「設備診断予知保全実用事典」を作り始めた。最終的に二千五百頁を超える大部となった本書はさすがに自社だけでは賄えずフジテクとの共同出版となってしまったのは悔しい事であった。本書は完成までに四年を要した。「設備」に続き、三月には「無線周波及びマイクロウエーブの生体・環境構築基準と安全対策」を作り始めたが、本書は半年後の九月には刊行すること

ができた。あまり売れなかったが、大型書籍のように何年も資金を寝かすことなく短期間での資金回収を可能にした。フジテクでは学ばなかったが、生活の必要から生まれた新しい本作りの考え方であった。続いて五月頃には「R・BASE 4000活用法」を、八月には「工事管理」を作り始めた。両者ともに、当初一〜二百万円の定価設定の予定だったが、監修者のたつての依頼で前者は定価二千五百円、後者は定価三千円の書店で販売する個人向け単行本とした。発刊は前者が新会社設立後の昭和六十年十一月、後者が設立直後の昭和六十年八月である。個人向け書籍は取次店経由が不可欠だが実績が無かった。「工事」発刊を前に、日販、栗田等の取次店に口座開設のため取引銀行の担当課長と足を運ぶ等手を尽くしたが、書籍出版の実績がないという理由で全て断られた。「R・BASE」の時は、当時私が趣味で通っていたボクシングジムの後輩が勤めていた技術評論社の片岡社長の好意で発行元を引き受けてもらった。技術評論社に千五百部委託で預かってもらったが、半年後に半分が返品されてきた。その返済も最終的には技術評論社の好意に甘えることになった。本来は取次ルート等の販売方法を確立してから作り始めることが常道であるのだが、走りながら考えることが当時の私のやり方であった。結局、「工事」はDM販売に頼らざるを得なかったが、「R・BASE」とともにそのしわ寄せは当時ほとんどの書籍の印刷をお願いしていたアイコー企画印刷社に行くことになったのである。「R・BASE」「工事管理」等、当時の新しい書籍発刊へのチャレンジも技術評論社やアイコー企画印刷社を初めとする印刷屋さんとの協力がなければ実現も難しかったのが実情である。もらったチャンスは全て生かし、甘えられない人には甘え、次々に新しい本作りに取り組み続けた。

そうした中で、昭和五十九年十月には二十名の執筆者のほとんどが海外研究者となる「国際版超臨界技術」を作り始めた。発刊は昭和六十二年九月である。きっかけは「R・BASE」の監修者の推薦である。本書は依頼状の仕様も本の出来もお世辞にも誉められたものではなかった。しかし、当時はセミナーと並ぶ出版という新しい柱の確立に必死で体裁は二の次であった。続いて十二月には、十月に開催した「二軸エクストルーダー国際シンポジウム」の講演録を作り始めた。これはおよそ一年後の昭和六十年十一月発刊となったが、原稿・版下作成は〇〇さんが担当した。本格的な講演録は初めての試みだったが本書はヒット商品となり、再スタート後間もない会社の経営に寄与するところは大きかった。昭和六十一年十月に開催した「日米高温超電導シンポジウム」の講演録とともに、後のNTSの講演録路線のきっかけとなるものでもあったといえる。昭和六十年三月には「液体クロマトグラフィーの工業化技術資料集成」を作り始めた。監修者が「R・BASE」の監修者の隣の研究室であったのも何かの縁である。発刊は昭和六十二年九月のことである。現在のNTSの営業方式である、電話営業のための第一号が本書である。

こうして振り返ると、創業から設立後一年余の期間に大型書籍、小型書籍、講演録、単行本、海外との連携等、現在NTSを支える出版の柱がこの時期に芽生えていることに気づく。セミナーで経営の基盤を築きながら、その収益を未来の商品に注ぎ込み、足りないところを印刷屋さん他の協力者の方々に支えられつつ、徐々にセミナー屋から出版社への脱皮を計っていた。エヌ・ティー・エヌの設立、再スタートは丁度そうした事業の核が生成する勢いの渦中の出来事でもあった。

掲示板

今月の人事

四月二十六日付入社	営業部
五月 十日付入社	営業部
五月 十一日付入社	営業部
五月 十五日付入社	営業部
五月 二十一日付入社	営業部

定期検診について

六月一日から十五日の間に、定期健康診断を実施しますので、各自実施日を確認の上受診して下さい。尚、当日は朝食を摂らないようお願い致します。

社内清掃について

次の日程で、本社事務所内の床掃除を行ないますので宜しくお願い致します。当日休日出勤の予定がある場合は作業に支障がありますので、必ず総務部に連絡して下さい。

五月二十三日(日)
六月二十七日(日)

編集後記

久しぶりの腰痛に悩まされている。中学、高校と部活の先生に「おまえの腰は強靱だな」と言われた私だったので、これも奇なる年波のせいなのか…。
〇〇さんに弟子入りして今一度体を鍛えねば、(伊)

NTSニュース一九九九年五月号(通巻十一号)

一九九九年五月二十五日発行